

板橋区ヤングケアラー実態調査の結果について（抜粋）

潜在化しているヤングケアラーの存在および実態を把握するため、実態調査を実施した。本調査はヤングケアラーが担っているケアの状況・悩み事・支援ニーズ等を併せて把握し、今後の施策の展開に反映することを目的とするものである。

1. 調査期間 令和5年5月8日（月）から6月2日（金）

2. 調査方法

無記名のアンケート方式（10～30問程度）

- (1) 区立小・中学校に在籍する児童・生徒
各学校に依頼文を送付し、学習用タブレット端末での回答
- (2) 区内の私立小中学校に在籍する区内在住の児童及び生徒
各学校に依頼文を送付し、オンラインで回答
- (3) 高校生世代及び関係機関
郵送または配布にて依頼文を送付し、オンラインで回答

3. 調査内容

設問は、国が実施した実態調査（令和3年度実施）の設問内容に準じている。調査票については、①小・中学生用②高校生世代用③関係機関用を用意し、ケアラーを担う当事者の状況及びそれを支援する機関の支援体制の状況等について明らかにする。

4. 調査回答数

対象	対象者数	回答数	回答率	国の回答率
区立小学校4年生～6年生	11,657人	4,622人	39.6%	6年生 39.8%
区立中学校全校生徒	9,162人	3,028人	33.0%	2年生 5.6%
板橋区内に住民登録のある高校生世代	11,693人	1,536人	13.1%	12.0%
板橋区内私立小中学校に在籍する板橋区在住の児童・生徒	約700人	81人	11.5%	
関係機関（板橋区要保護児童対策地域協議会関係機関）	約4,500人	526人	11.6%	
総数	約37,200人	9,793人	26.3%	

※関係機関→教職員、民生児童委員、幼稚園、保育園、あいキッズ

5. 子ども向け調査結果

(1)認知度（「ヤングケアラー」という言葉を、あなたはこれまでに聞いたことがありますか。）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	板橋区	国	板橋区	国	板橋区	国
聞いたことがあります、 内容も知っている	15.3%		27.1%	6.3%	52.2%	5.7%
聞いたことがあるが、 よく知らない	18.7%		22.6%	8.8%	16.7%	6.9%
聞いたことはない	64.2%		49.3%	84.2%	31.0%	86.8%

(2)お世話をしている人の有無

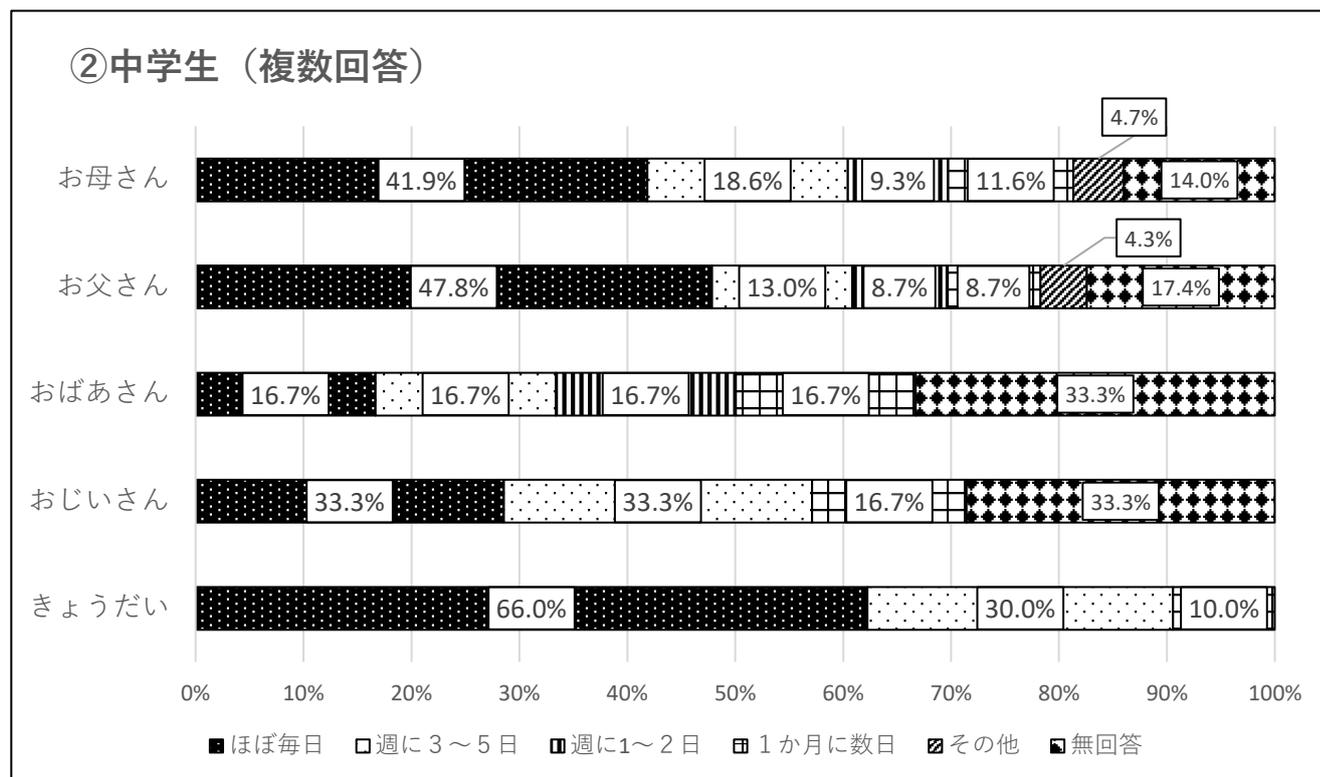
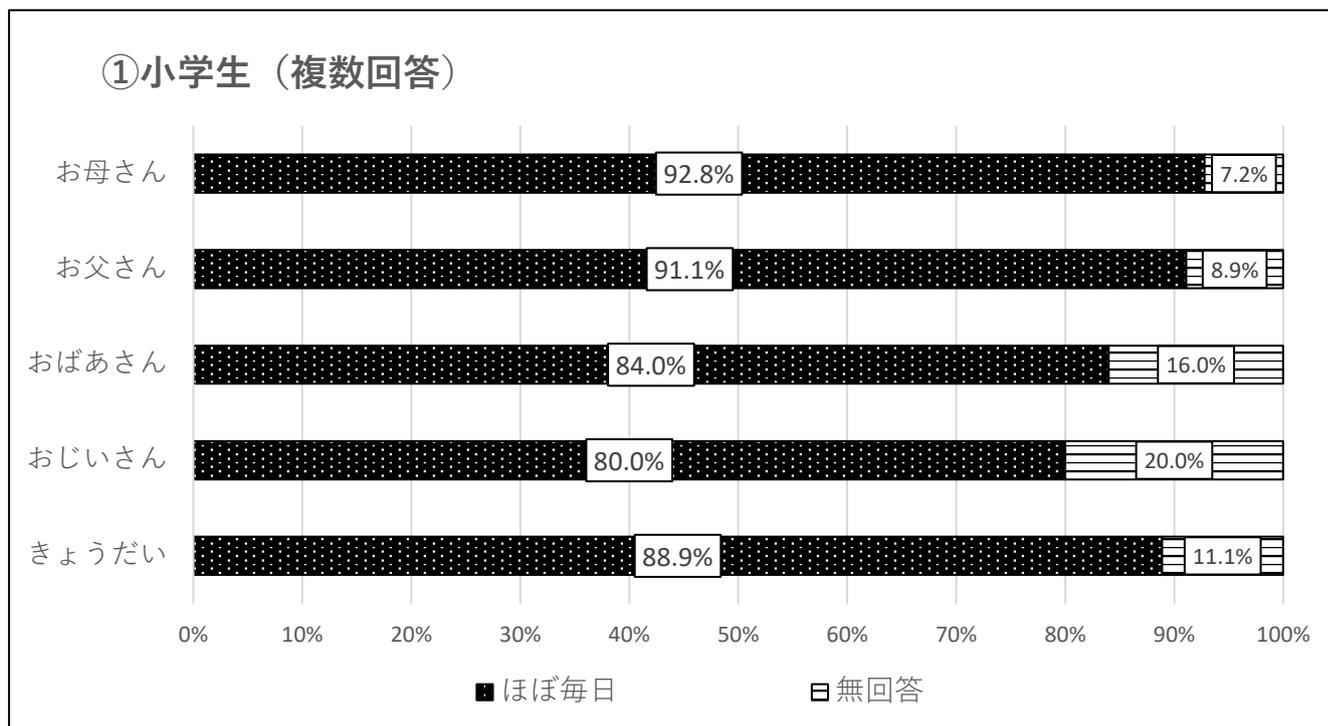
(家族の中に、あなたがお世話をしている方はいますか。)

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	板橋区	国	板橋区	国	板橋区	国
お世話をしている人が 「いる」	9.9%	6.5%	5.6%	5.7%	5.3%	4.1%
	10人に 1人	15人に 1人	18人に 1人	17人に 1人	19人に 1人	24人に 1人

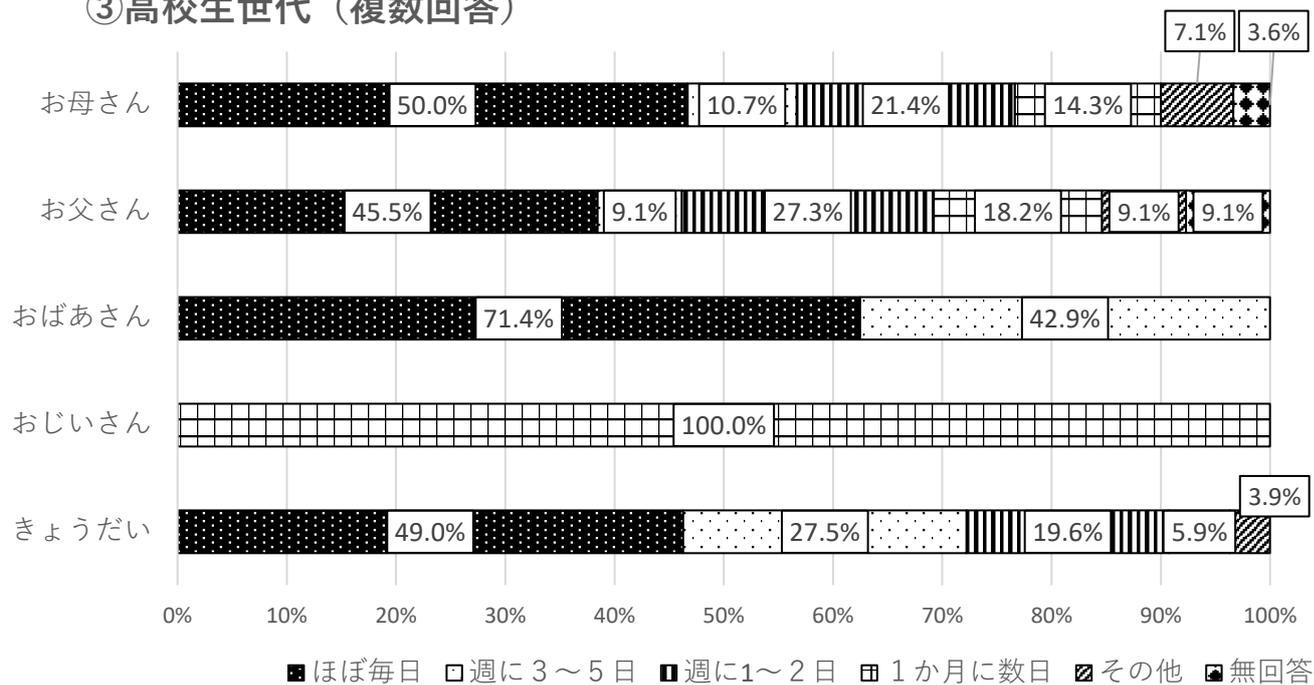
(3)お世話を必要としている家族（あなたがお世話をしている人はどなたですか。）

回答	小学生		中学生		高校生世代	
	板橋区	国	板橋区	国	板橋区	国
お母さん	30.2%	19.8%	24.9%	23.5%	34.1%	29.6%
お父さん	20.9%	13.2%	14.5%		13.4%	
おばあさん	8.5%	10.3%	12.1%	14.7%	8.5%	22.5%
おじいさん	4.3%	5.5%	3.5%		1.2%	
きょうだい	57.8%	71.0%	60.7%	61.8%	62.2%	44.3%
その他	8.7%	1.9%	4.0%	3.8%	1.2%	5.5%

(4)お世話の頻度 (あなたはその方へのお世話をどのくらいしていますか。)



③高校生世代（複数回答）



(5)主なお世話の内容（あなたはその方にどのようなお世話をしていますか。）

①小学生（複数回答）

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
1	家事（67.6%）	家事（67.8%）	家事（76.0%）	家事（80.0%）	家事（77.8%）
2	買い物・散歩 （27.3%）	買い物・散歩 （31.1%）	買い物・散歩 （32.0%）	買い物・散歩 （40.0%）	買い物・散歩 （25.0%）
3	困りごとを聞く・ 話し相手になる （21.6%）	困りごとを聞く・ 話し相手になる （21.1%）	困りごとを聞く・話し 相手になる・見守 り（16.0%）	病院への付き添い （20.0%）	お世話や保育園 等の送り迎え （22.2%）

②中学生（複数回答）

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
1	家事（60.5%）	家事（65.2%）	家事（33.3%）	家事（33.3%）	家事（90.0%）
2	買い物・散歩 （46.5%）	買い物・散歩 （47.8%）	買い物・散歩 （33.3%）	買い物・散歩 （33.3%）	買い物・散歩 （40.0%）
3	困りごとを聞く・ 話し相手になる （30.2%）	困りごとを聞く・ 話し相手になる （26.1%）	困りごとを聞く・ 話し相手になる （33.3%）	困りごとを聞く・ 話し相手になる （33.3%）	困りごとを聞く・ 話し相手になる （40.0%）

②高校生世代（複数回答）

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
1	家事（67.9％）	家事（72.7％）	家事（57.1％）	家事（100％）	見守り（51.0％）
2	感情面のサポート （35.7％）	買い物・散歩 （36.4％）	感情面のサポート （57.1％）	回答なし	保育園等の送り迎え （43.1％）
3	買い物・散歩 （21.4％）	着替え・入浴・ト イレの手伝い （36.4％）	見守り （57.1％）	回答なし	着替え・入浴・ト イレの手伝い （39.2％）

(6)お世話をすることによる生活への影響（複数回答）

（あなたは家族のお世話をしていることで、以下のような経験をしたことがありますか。）

対象	生活への影響
小学生	①友達と遊べないことがある（14.1％） ②自分の時間が取れない（10.0％） ③勉強する時間がない（7.8％）
中学生	①自分の時間が取れない（19.1％） ②勉強する時間がない（14.5％） ③友達と遊べないことがある（9.8％） ③睡眠が十分にとれない（9.8％）
高校生世代	①勉強する時間がない（19.5％） ②自分の時間が取れない（18.3％） ②友達と遊べないことがある（18.3％）

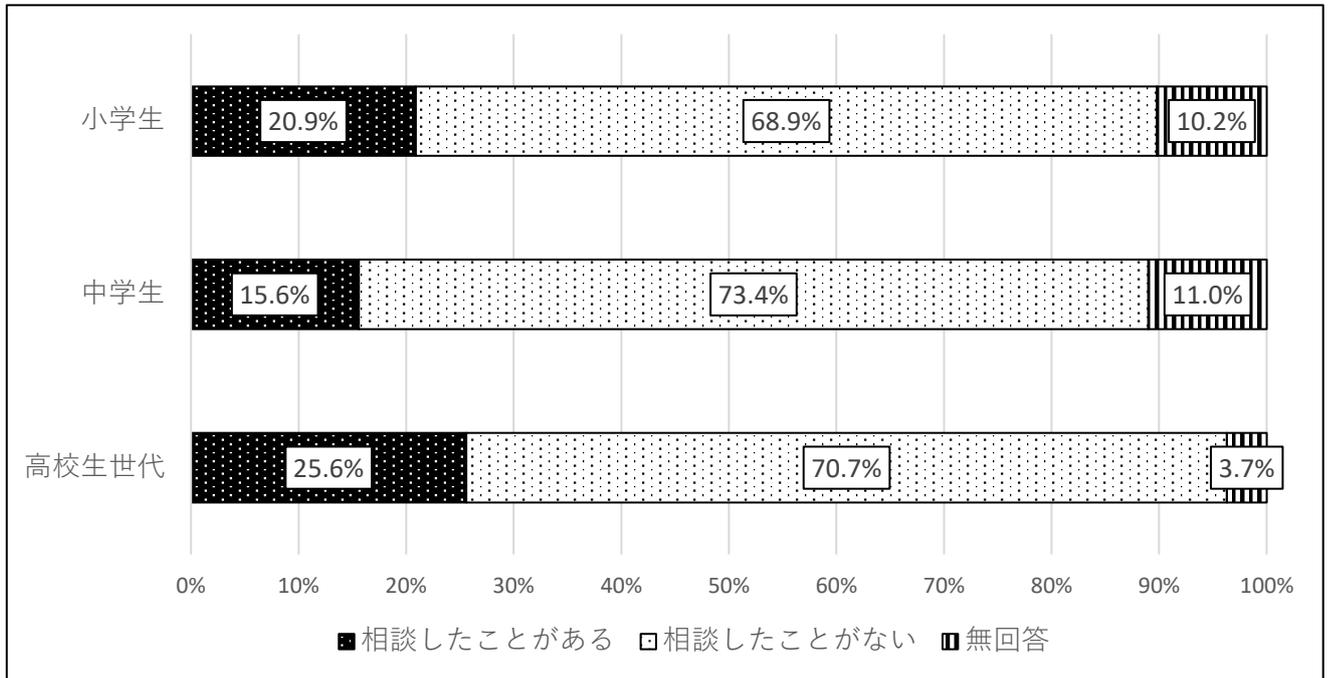
(7)必要としている支援（複数回答）

（あなたが学校やまわりの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。）

対象	必要とする支援
小学生	①自分の話を聞いてほしい（10.9％） ②自由に使える時間がほしい（7.6％） ③自由に過ごせる場所がほしい（6.5％）
中学生	①自分の話を聞いてほしい（12.7％） ①自由に過ごせる場所がほしい（12.7％） ②自由に使える時間がほしい（12.1％）
高校生世代	①家庭への金銭面での支援をしてほしい（15.9％） ①自由に過ごせる場所がほしい（15.9％） ②自分の状況を聞いてほしい（12.2％）

(8)相談の経験の有無

(あなたはお世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。)



(9)誰に相談しているか(複数回答)

(お世話についての悩みをあなたは誰に相談しましたか。)

対象	相談相手
小学生	①家族 (88.5%) ②友達 (27.1%) ③学校の先生 (保健室の先生以外) (11.5%)
中学生	①家族 (63.0%) ②友達 (55.6%) ③学校の先生 (保健室の先生以外) (22.2%) ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー (22.2%)
高校生世代	①友達 (57.1%) ②家族 (42.9%) ③学校の先生 (保健室の先生以外) (28.6%)

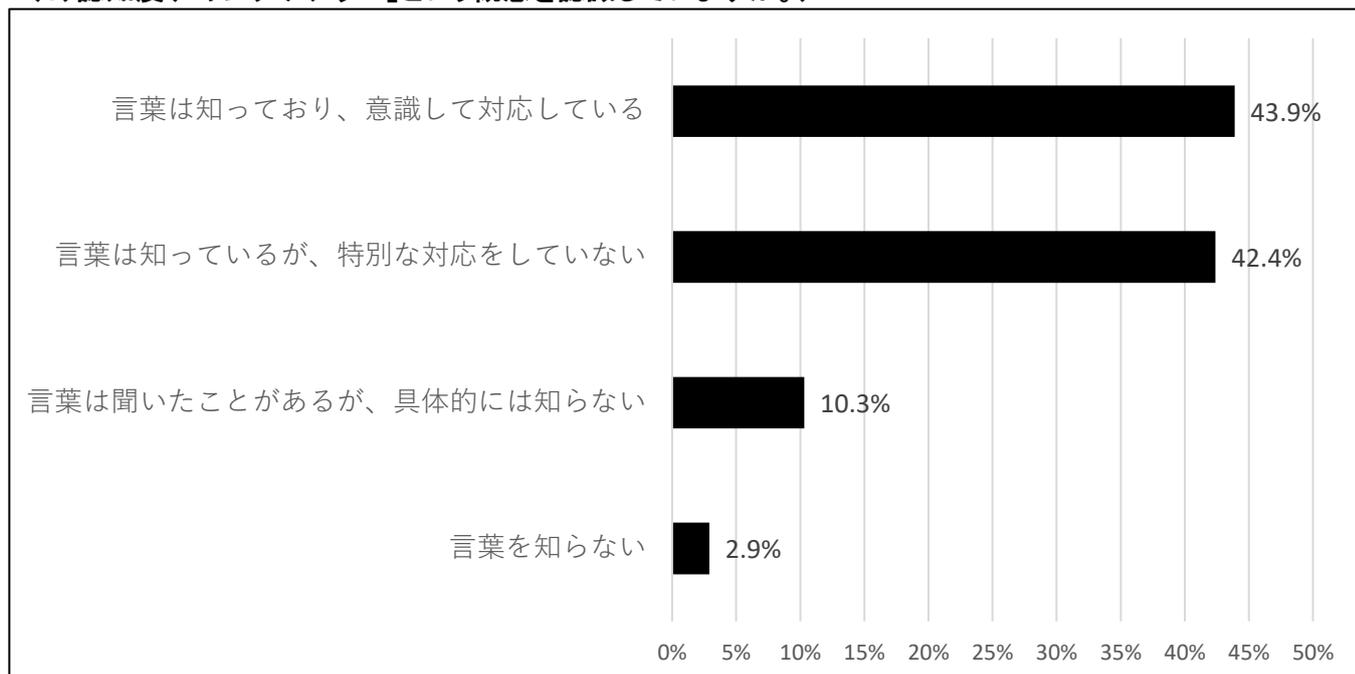
(10)子どもたちが希望する相談方法(複数回答)

(今後、あなたが話したいと思ったときに、どのような方法で話や相談をしたいですか。)

対象	相談相手
小学生	①直接会って (63.7%) ②電話 (21.5%) ③メール (19.6%)
中学生	①直接会って (55.1%) ②メール (29.1%) ③電話 (18.9%)
高校生世代	①直接会って (63.8%) ②SNS (32.8%) ③電話 (20.7%) ③メール (20.7%)

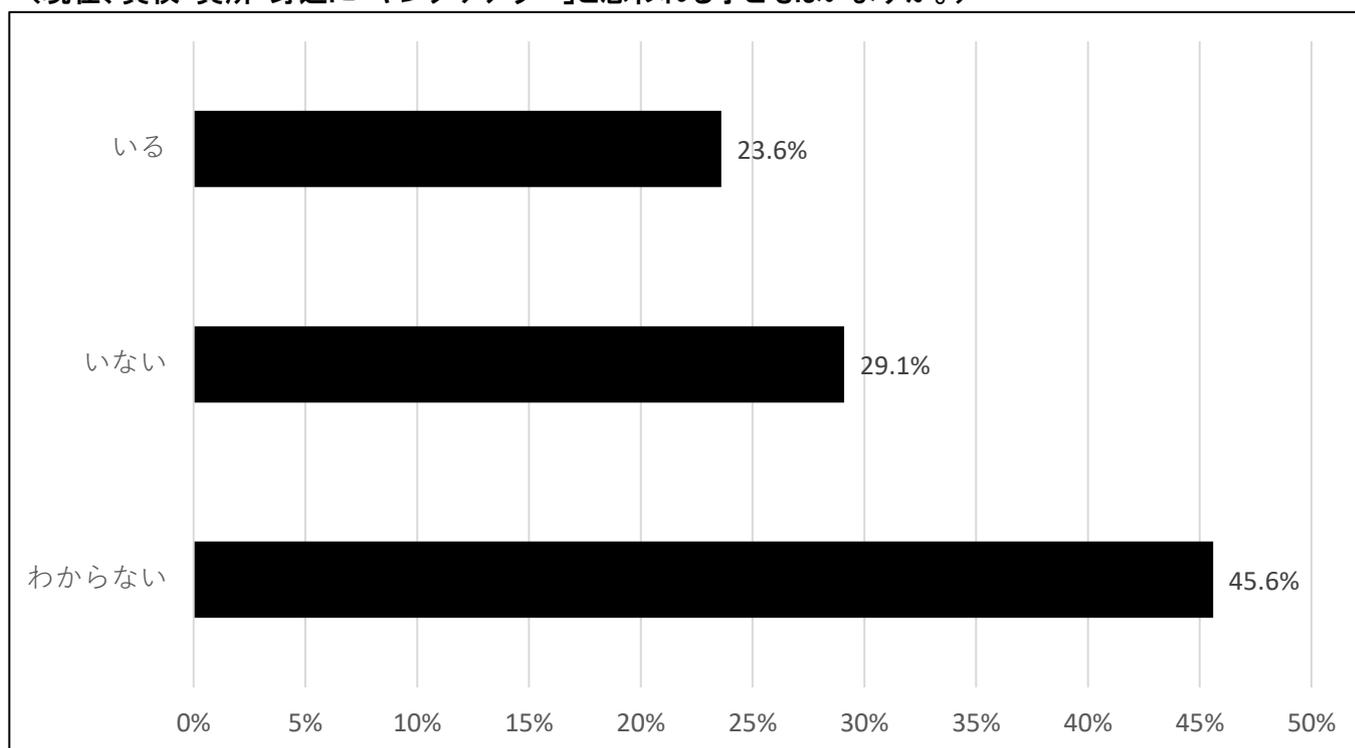
6. 関係機関向け調査結果

(1)認知度(「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。)

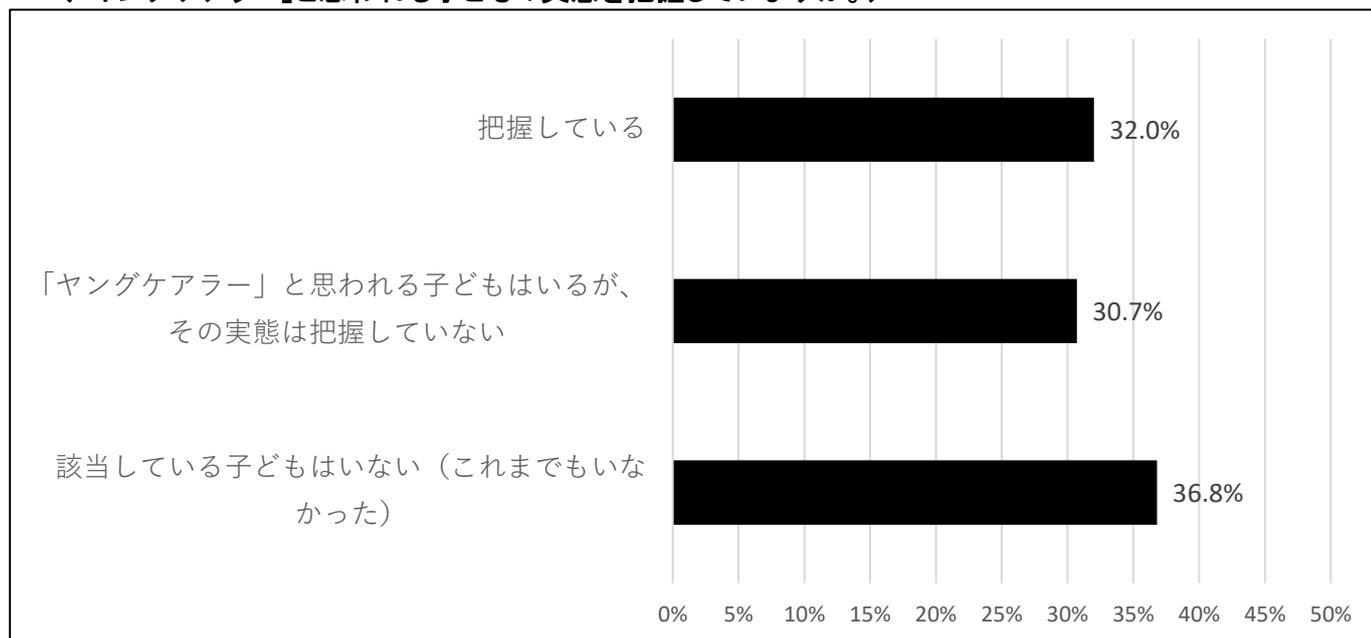


(2)「ヤングケアラー」と思われる子どもの割合

(現在、貴校・貴所・身近に「ヤングケアラー」と思われる子どもはいますか。)



**(3)「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握している割合
 (「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。)**

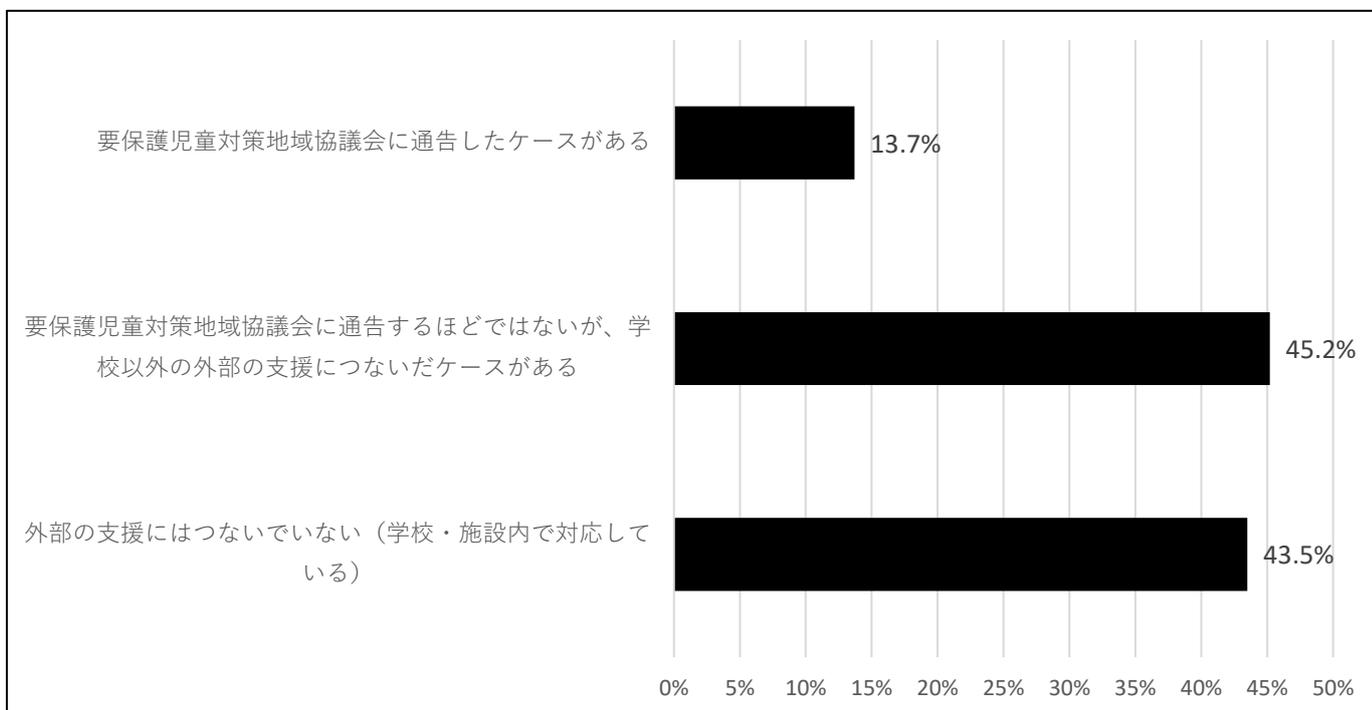


**(4)ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答・上位5件）
 (ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。)**

回答	割合
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	80.6%
障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯など）をしている	27.4%
家族の通訳をしている（日本語、手話など）	21.8%
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	14.5%
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	10.5%

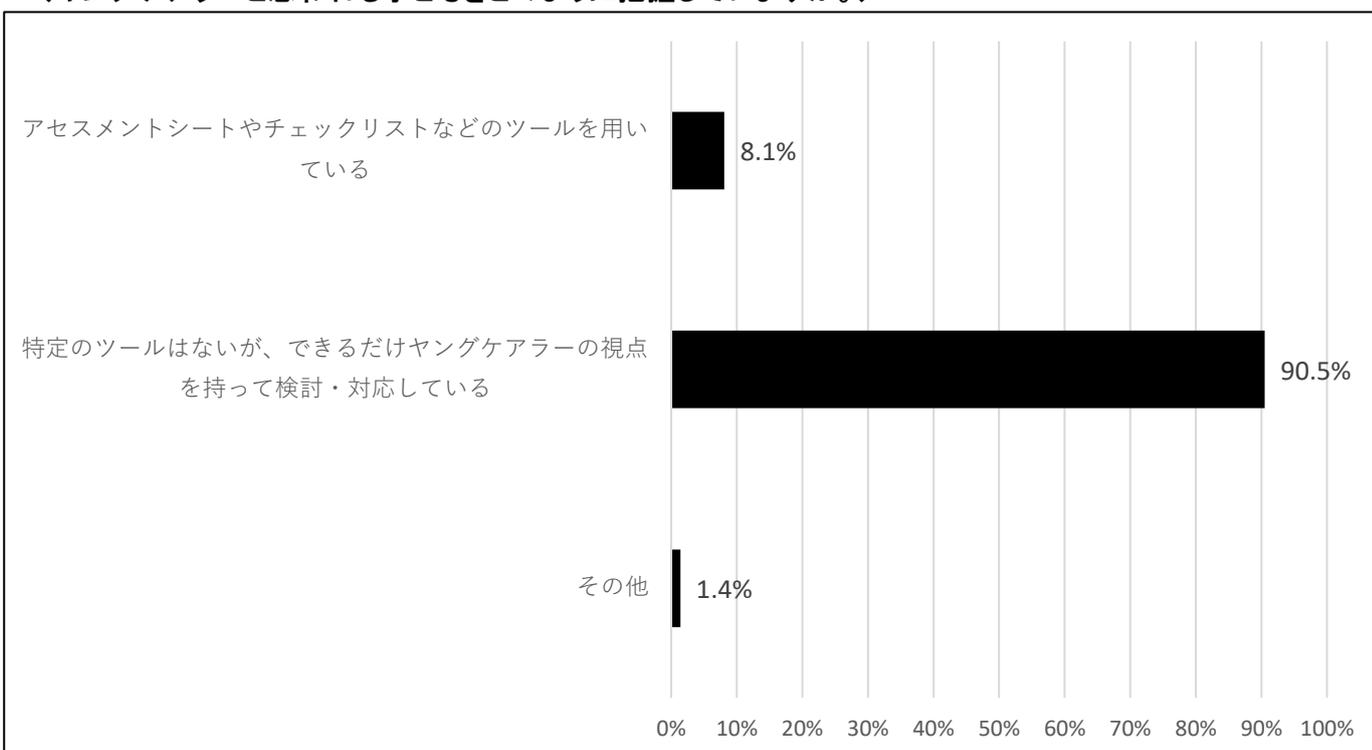
(5)外部の支援につなげたケースの有無（複数回答）

（ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（区役所、教育委員会、要保護児童対策地域協議会）の支援につなげたケースはありますか。）



(6)ヤングケアラーの把握の方法

（ヤングケアラーと思われる子どもをどのように把握していますか。）



(7)ヤングケアラー支援のために必要だと思うこと(複数回答・上位5件)
(ヤングケアラーを支援するために必要なことはどのようなことですか。)

回答	割合
大人がヤングケアラーについて知ること	78.1%
子どもが大人に相談しやすい環境	70.5%
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	68.4%
学校や施設にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口	50.8%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門職の配置の充実	50.6%

板橋区ヤングケアラーに関する実態調査

結果の概要、結果のまとめ及び課題について

1 小学生

結果の概要

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは 9.9%。(問 8) (※国の調査では、世話をしている家族の有無については、6.5%の回答者が「いる」)
- ・お世話をしている人は、「きょうだい」が最も高く 57.8%、次いで「お母さん」が 30.2%、「お父さん」が 20.9%となっている。(問 9①) (※国の調査では、「きょうだい」が 71.0%と最も高く、次いで「母親」が 19.8%)
- ・世話を必要としている家族ごとに、世話の内容について聞いたところ、「家事」が最も高くなっている。(問 9④×問 9①)
- ・世話を一緒にしている人は、「自分のみ」の割合が 39.6%、「お母さん」の割合が 33.8%、「きょうだい」の割合が 32.4%。(問 9③) (※国の調査では、「母親」(64.2%)と最も高く、次いで「父親」(47.1%)、「きょうだい」(36.0%))
- ・世話をすることによる生活への影響は、「とくにない」の割合が 65.0%、「友だちと遊べないことがある」が 14.1%、「自分の時間が取れない」が 10.0%、「勉強する時間がない」が 7.8% (問 10) (※国の調査では、「特にない」(63.9%) が最も高く、そのほかでは、「自分の時間が取れない」(15.1%))

結果のまとめ及び課題

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは 9.9% (国 (令和 3 年度) : 6.5%)。
- ・お世話をしている人が 「きょうだい」の割合が高く半数を超えている。
- ・お世話をしている頻度が高い子どもは、負担感を感じる子どももいるものの、肯定的にとらえる子どもの割合が高くなる傾向となっている。
- ・父母のお世話をすることによる生活の影響は、「友だちと遊べないことがある」「自分の時間が取れない」の割合が高く、平日の世話の時間が長いほど「友だちと遊べないことがある」「部活動や習いごとが思うようにできない」の割合が高くなる傾向が見られる。お世話をしている対象や時間によって、生活への影響への差がある。

※国の調査は小・中学生を合算した数値となっています。

2 中学生

結果の概要

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは 5.6%。(問8) (※国の調査では、世話をしている家族の有無については、5.7%の回答者が「いる」)
- ・お世話をしている人は、「きょうだい」が最も高く 60.7%、次いで「お母さん」が 24.9%、「お父さん」が 14.5%となっている。(問9①) (※国の調査では、「きょうだい」が 71.0%と最も高く、次いで「母親」が 19.8%)
- ・世話を必要としている家族ごとに、世話の内容について聞いたところ、「家事」が最も高くなっている。(問9④×問9①)
- ・世話を一緒にしている人は、「自分のみ」の割合が 44.2%、「きょうだい」の割合が 32.6%、「お父さん」の割合が 27.9%。(問9③) (※国の調査では、「母親」(64.2%)と最も高く、次いで「父親」(47.1%)、「きょうだい」(36.0%))
- ・世話をすることによる生活への影響は、「とくにない」の割合が 53.2%、「自分の時間が取れない」が 19.1%、「勉強する時間がない」が 14.5%、「友だちと遊べないことがある」「すいみんが十分に取れない」が 9.8% (問10) (※国の調査では、「特にない」(63.9%)が最も高く、そのほかでは、「自分の時間が取れない」(15.1%))

結果のまとめ及び課題

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは 5.6% (国 (令和3年度) : 5.7%)。
- ・お世話をしている人が「きょうだい」の割合が高く半数を超えている。
- ・お世話をしている頻度が高い子どもは、肯定的にとらえる子どももいるものの、負担感を感じる子どもの割合が高くなる傾向となっている。
- ・父母のお世話をすることによる生活の影響は、「自分の時間が取れない」「勉強する時間がない」の割合が高く、平日の世話の時間が長いほど「自分の時間が取れない」の割合が高くなる傾向が見られる。お世話をしている対象や時間によって、生活への影響への差がある。

※国の調査は小・中学生を合算した数値となっています。

3 高校生

結果の概要

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは5.3%。(問17)(※国の調査では、世話をしている家族の有無については、4.1%の回答者が「いる」)
- ・お世話をしている人は、「きょうだい」が最も高く62.2%、次いで「お母さん」が34.1%、「お父さん」が13.4%となっている。(問18①)(※国の調査では、「きょうだい」が44.3%と最も高く、次いで「父母」が29.6%)
- ・世話を必要としている家族ごとに、世話の内容について聞いたところ、「母親」、「父親」、「祖母」、「祖父」では、「家事」が最も高くなっている。一方、「きょうだい」では「見守り」が最も高くなっている。(問18④×問18①)
- ・世話を一緒にしている人は、「お母さん」の割合が67.1%、「お父さん」の割合が63.4%、「きょうだい」の割合が51.2%。(問18③)(※国の調査では、「母親」(52.1%)と最も高く、次いで「きょうだい」(34.5%)、「父親」(28.3%)、)
- ・世話をすることによる生活への影響については、「特にない」が57.3%、「勉強する時間がない」(19.5%)、「友達と遊べないことがある」「自分の時間が取れない」(18.3%)となっている。(問19)
- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは「進路のこと」「自分と家族の関係のこと」「友達との関係のこと」「学校生活に必要なお金のこと」「自分のために使える時間が少ないこと」に悩んだり、困っている人の割合が高い。(問9×問17)
- ・お世話を必要としている家族のことや、お世話についてこまったことを相談したことが「ある」人は25.6%。相談相手は、「友達」が57.1%「家族」が42.9%、「学校の先生」が28.6%。(問24)
- ・相談していない人の理由は、「だれかに相談するほどの悩みではない」が44.8%、「悩みはない」が43.1%、「相談しても状況が変わると思えない」が13.8%。(問25)

結果のまとめ及び課題

- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは5.3%。(国(令和2年度):4.1%)
- ・お世話をしている人が「きょうだい」の割合が高く半数を超えている。
- ・家族の中にお世話をしている人がいる子どもは、「進路のこと」「学校の成績のこと」「友達との関係のこと」に悩んだり、困っている人の割合が高くなっている。お世話をしている頻度が高い子どもは、特に「進路のこと」「友達との関係のこと」に悩んだり、困っている人の割合が高い。
- ・お世話を必要としている家族のことや、お世話についてこまったことを相談したことが「ある」人は25.6%となっており、相談していない人の理由は、だれかに相談するほどの悩みではないが44.8%、「悩みはない」が43.1%、「相談しても状況が変わると思えない」が13.8%となっている。ヤングケアラーに対しての周知(お世話をしている人ほど認知度が低い)や、SNS等を活用した相談等、関係機関と連携した子どもに寄り添った相談・支援を行うことが必要。

4 関係機関

結果の概要

- ・「ヤングケアラー」の認知度については「言葉を知っており、意識して対応している」が43.9%、「言葉は知っているが、特別な対応をしていない」が42.4%、「言葉は聞いたことあるが、具体的には知らない」が10.3%となっている。(問6)
- ・「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握については「該当する子どもはいない(これまでいなかった)」が36.8%、「把握している」が32.0%、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が30.7%となっている。(問7)
- ・貴校・貴所・身近にヤングケアラーと思われる(可能性含めて)子どもについては「わからない」が45.6%、「いない」が29.1%、「いる」が23.6%となっている。(問9)
- ・「わからない」と回答した理由については「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が78.8%となっている。(問11)
- ・ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことについては「大人がヤングケアラーについて知ること」が78.1%、「子どもが大人に相談しやすい環境」が70.5%、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が68.4%となっている。(問12)

結果のまとめ及び課題

- ・「ヤングケアラー」の認知度について「言葉は聞いたことあるが、具体的には知らない」が10.3%、「言葉を知らない」が2.9%となっている。
- ・「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握については「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が30.7%となっており、理由については「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が78.8%となっている。アセスメントシートやチェックリストなどのツールや、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応を行うことが必要。
- ・ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことについてはヤングケアラーに対しての周知(お世話をしている人ほど認知度が低い)や、SNS等を活用した相談等、関係機関と連携した子どもに寄り添った相談・支援を行うことが必要。